

## 会 議 要 旨

|           |   |
|-----------|---|
| 会議名       | 令和5年度第3回館山市行財政改革委員会   |
| 開催日       | 令和5年12月6日(水) 16:45~17:55  |
| 開催場所      | 館山市役所 本館2会議室 (委員長リモート参加)  |
| 出席者       | 館山市行財政改革委員会委員 8名<br>館山市(事務局)<br>市長、副市長、総務部長、行革財政課(課長以下4名)   |
| 公開・非公開の別  | 公開  |
| 非公開の場合の理由 |   |
| 傍聴者       | 0名  |
| 会議概要・結果等  | <p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 市長挨拶</b></p> <p><b>3 報告事項</b></p> <p><b>(1)「館山市立小中学校再編計画」(素案)について</b><br/>【事務局より説明】</p> <p>○13校を5校にするプランだが、単に統廃合するということではなく、『新しきもの・より良きもの』を創り上げていきたい。</p> <p>○素案はあくまでもたたき台。これから地域の方々と一緒に考えていきたい。</p> <p>○計画の5つのポイントについて、資料をもとに説明。</p> <p><b>(2)事業仕分けの結果及び結果を踏まえた現在までの庁内の動きについて</b><br/>【事務局より説明】</p> <p>○評価した16事業・施設のうち、『不要・凍結』が2事業、『要改善』が11事業、『現行通り・拡充』が3施設だった。</p> <p>○組織を横断して対応しなければならない補助金事業と植栽関連事業については、事業仕分け実施後、すみやかに、市長が担当課に対応について指示した。</p> <p>○移住者に対するアンケートも、事業仕分け実施後すぐに開始した。</p> <p><b>(3)仕分け参加者アンケート集計結果について</b><br/>【事務局より説明】</p> <p>○市民判定人のうち、約94%が「事業仕分けに参加して良かった」と回答した。</p> <p>○参加した市民判定人の8割以上が「市の事業・税金の使い方の関心が高まった」と回答した。</p> <p>○アンケートに回答した傍聴人全員が「参加して良かった」と、8割以上が「市の事業・税金の使い方の関心度が高まった」と回答した。</p> <p>○アンケートに回答した職員の半数が「事業仕分けの必要性を感じる」と回</p> |

答した。

○アンケートに回答した職員の半数が「自身の業務を改善できそうだ」と回答した。

#### 【報告事項に対する主な委員意見】

(●：委員意見 ⇒：事務局回答)

●事業仕分けに参加できなかった人たち、興味はあったがYouTube（インターネット中継）を観ることができなかったという人がいるが、そのような人たちに対して、あの臨場感をどのように伝えるのか。

⇒事業仕分けの結果は広報でお知らせしている。また、市のホームページ上に動画をアップし、どなたでも視聴できるようにしている。

●事業仕分けに関わった市民は一部なので、これをどのように広げていくかは他の自治体でも課題になっている。地道かもしれないが、参加していない人たちにも伝える努力は必要だと思う。

●職員によって事業仕分けの感じ方や準備のためにかかった時間が違うと推察される。アンケートで読み切れない部分を事務局から補足いただきたい。

⇒職員によって捉え方が違うと感じており、準備の時間も事業によってかなりの差があったと感じている。ただし、担当課の職員は、予算査定や議会対応など、様々な場面において根拠などを示しているのでも、資料作成については通常業務にプラスになってしまったが、それほど負担はなかったと感じている。しかしながら、12年振りの開催となったため、事業仕分けを経験したことがない職員が多く、経験がない中での準備には不安や大きな負担があったのではないかと思う。

## 4 協議事項

### (1) 今後の事業仕分けについて

#### 【事務局より説明】

○今後も事業仕分けを実施していきたいと考えているが、今年度の事業仕分けを振り返ると、事業選定に十分な時間が取れなかった。翌年度の予算に反映させるため、9月開催として逆算して準備を進めてきたが、担当課との調整期間が短く、対応に苦慮した。よって、今後の実施時期については、令和7年8月の実施を目指して準備していきたいと考えている。6年度については、当課の事業であるふるさと納税を題材にして、行財政改革委員会の中で、模擬仕分けのような形で市民に公開して実施していきたいと考えている。

#### 【協議事項に対する主な委員意見】

(●：委員意見 ⇒：事務局回答)

●準備が大変ということはわかるし、職員のアンケート結果が市民判定人や傍聴人の評価よりも低かったことも理解する。アンケートで良かったと言うのは簡単だが、逆に否定的なことを言えることに仕事に対する誇りを感じる。

●基本的には継続的に事業仕分けを実施した方がよいと思うが、事業仕分けによらなくても行財政改革ができる体制を作っていくこともありだと思

う。

- 市の職員も大変だっただろうと想像がつくが、仕事だから頑張ってくださいとしか言いようがない。
- 形や頻度にこだわらず、必要があれば実施すればよいと思う。
- 市民と職員との間に温度差があったのであれば、その差を埋める必要があり、そのためには時間が必要だと思う。
- 大がかりなものは毎年できなかったとしても、もう少しコストを落として、市民と職員が交わる場を作ることが大事だと思う。
- 模擬仕分けを見学し、職員同士で実施する仕分けに非常に意味があると感じた。庁内のことをよく知っている職員同士が公の場で議論する、そういった中での切磋琢磨は必要だと思う。
- 何よりも関心したのは、事業仕分けの進め方。参加した方はこういった技術的な部分についても勉強になったのではないかと思う。そういった意味では毎年は難しいかもしれないが、こういう場が必要だと思う。
- 館山市が何を目的に事業仕分けを実施するかがポイント。
- 経営者的な視点では、毎年実施して当たり前。事業仕分けのための準備ではなく、評価するという文化ができれば、事業仕分けの準備は業務の延長線上になり、職員の負担感も軽減すると考える。最終的には市の判断になる。
- 市役所の中だけでなく、市全体として非常に厳しい局面を迎えている。このような社会情勢を踏まえて行政活動を行っていただきたい。

## 5 その他

- 来年度の事業仕分けについては、本委員会での意見を参考に市で検討する。
- 次回は予算編成の結果について報告する予定。

## 6 閉会